

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.38

日時	2013年9月29日
行脚先	黒田の石垣
住所	大分県中津市二ノ町（豊前国）
行事名	

## 特徴

中津城本丸北側、向かって右側の石垣は「折りあらば天下人に」という野望を秘めた黒田官兵衛時代の本丸跡の石垣です。

対して左側の石垣は、細川忠興時代のもです。

ここは黒田・細川時代にそれぞれ築かれた石垣が並び、非常に分かりやすく比較できる場所です。

本来、官兵衛が築いた石垣には、当時の最高技術である穴太積みの技法が用いられています。石は全て花崗岩の自然石で、ノミで削った痕跡が一切無く、石本来の特徴を活かして積まれています。

しかしこの場所では、川上にある国指定史跡「唐原山城」の石を持ち出し石垣を築いています。

早く、効率的な築城を目指した官兵衛の知恵の見せ所です。

## 黒田官兵衛との関わり

天正15年(1587年)官兵衛が豊臣秀吉に豊前の六郡を与えられた際、山国川の河口である中津の地を選び、翌年中津城の築城を始めました。

軍事的にも西に山国川、南と東に大家川、北に周防灘を控えた要害の地でした。

同時に瀬戸内海に面し、畿内への重要な港でもありました。

官兵衛は、間無浜から自見・大塚一体を含む大規模な築城に取りかかりましたが、度重なる戦のためなかなか工事も捗らないまま、慶長5年(1600年)関ヶ原の戦いなどの功によって筑前五十二万石への加増天封し中津を去りました。

黒田氏の後には、細川忠興が豊前一国と豊後国の国東・速見二郡の領主として入部しました。

その後、元和6年(1620年)家督を細川忠利に譲った忠興は、翌7年中津城や城下町の整備を本格的に行いました。

元和の一国一城令や忠興の隠居城としての性格のため、同年本丸と二ノ丸の間の堀を埋め、天守台を周囲と同じ高さに下げるよう命じています。

## 記録

